



一般タイプのバスを改造した場合と異なり、一見、普通車とはわからないサイドビュー、アルミホイールも手入れよく磨かれ美しい

## 葬儀社である公益社は霊柩バスとしてエアロキングを新車で購入

遺族が棺と一緒に会場まで乗るためのマイクロバスの霊柩車は全国で見かけることができるが、北海道や北東北の一部地域には中型から大型クラスの霊柩バスがある。冬期の積雪時に乗用車で長い葬列をなすことは事故や遅延につながるため、皆が1台のバスで移動することに大きな意義があるのである。そのような中で、ダブルデッカーは故人を送るのにふさわしい高級車である。また多くの方が参列するような葬儀では、一度に大

人数を運ぶことができるため、特に力を発揮する。棺はトランクルームスペースを改造した場所に納められる。ただし一般のバスを霊柩車に改造するときのような大きな改造ではなく、内部に振動を防止するパッドや搬出入をやすくするためのコロボが付いている程度で、外観は普通の観光バス。室内装備品も、一般の観光用エアロキングと大きく変わる点はない。棺の上の位置にも座席はあるが、そこに座らないよう、ロープが掛けられている。



後輪の上のトランクルーム部分に棺は納められる。出し入れがスムーズにできるよう、床面にはコロボ付きの台座が付いており、運行中に棺が動かないよう、両入口に留め具が付いているほか上部はフエルトで押さえられるようになっている



通常のエアロキングと異なるのは8ナンバーであるということくらい



この部分で特に座席を外している部分はなく、棺を搬入し搬出する際のエアロキングを掛ける「カチン」の音を抑えるため、座席を外している部分はない



リアはI・II型当時と大きく変わっていないが側面後部のルーバー形状が変更された。非常口の位置は通路位置に合わせて、3列シート車は右寄りに、4列車は中央にそれぞれ設置



観光仕様の座席はリクライニングシートがずらりと並んでいて、座席の背にはカッパホルダー、灰皿とネットの物入れ、天井は低い。邪魔にならない位置に高級のボックスが取り付けられている。この車内の照明は、観光用と違ってダウンライトが多い。深夜の運行時には照明を落とす必要がある



ノンステップの1階は1段高い位置に座席を取り付けている。座席配置は各車、個性が出る。この車内では、前向きな座席は基本的に普通車と変わらない。ボルトクローラーは中ドア部分に取り付けられているが、床面は大きく、普通車時の足の邪魔にならないよう、下部を切り欠いたスタイルとなっている

